

北海道浮魚ニュース

平成 22(2010)年度 19 号

2010 年 10 月 8 日

北海道立総合研究機構水産研究本部

釧路水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

◎道東太平洋サンマ南下期調査結果

漁獲尾数は比較的多く、魚体は大型魚主体で中小型魚混じり

北辰丸(釧路水産試験場試験調査船)で行ったサンマ南下期調査の結果をお知らせします。今回の調査は、道東太平洋海域へのサンマの南下状況を把握することを目的に実施しました。

調査期間 : 2010 年 9 月 30 日～10 月 7 日

調査海域と調査点 (図 1) : 道東太平洋 (40° 00'N～42° 40'N, 144° 00'E～147° 00'E) の 15 調査点 (漁獲調査は 7 点)。

調査方法 : CTD による海洋観測及び 9 種類の目合 (22,25,29,37,48,55,63,72,82mm) の流し網を用いた漁獲試験を実施しました。

1. 表面水温(図1, 表 1)

各調査点の表面水温は 12.3～18.4℃の範囲でした。南側の St. 10 で最も高く、東側の 200 海里ライン沿い (St. 1～7) では、親潮系水と見られるサンマの分布に好適な 15℃前後の水温が広がっていました。西側の十勝沖 (St. 11, 13, 15) では 16℃以上のやや高い値でした。

2. 漁獲尾数と CPUE(図 1, 表 1, 表 2)

流し網調査の結果、サンマの総漁獲尾数は 2,157 尾でした。また、CPUE* (流し網 1 反あたりの漁獲尾数) は 22.0 尾でした。これを 2000 年以降の同調査結果と比較すると、漁獲尾数、CPUE ともに中位を示す値でした。サンマの分布状況としては、十勝・釧路沿岸域の水温 16.5℃前後の海域に多く分布しているようです。

3. 体長組成(図 2)

流し網で漁獲されたサンマの体長範囲は、17～33cm 台でした。漁獲尾数の多かった十勝・釧路沿岸域では、釧路沿岸域で中小型魚が多く、十勝海域では大型魚が主体でした。三陸沖合域 (St. 7, 9, 13) では大型魚主体となっていました。調査点全体の合計では全漁獲尾数に対して小型魚・ジャミの割合が 22%を占めていました。特大・大型魚の割合は 50%であり、昨年 (62%) よりも低い値でした。

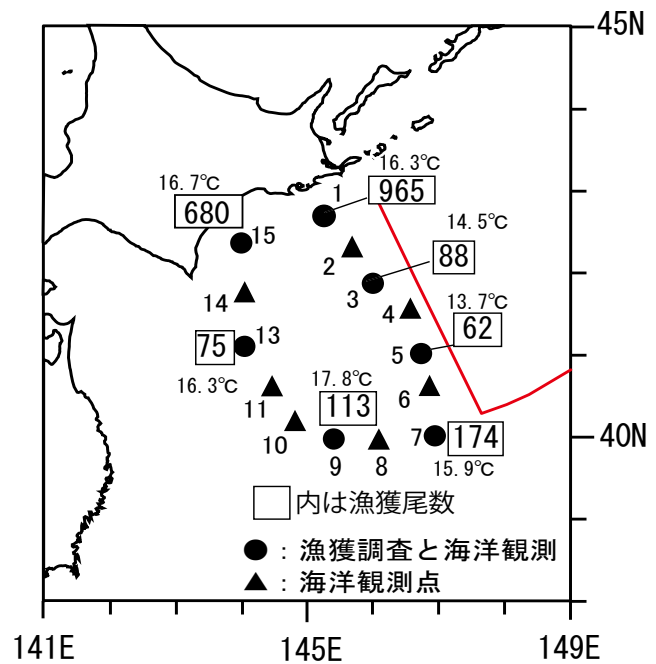


図 1 2010 年サンマ南下期調査の調査点ごとのサンマ漁獲尾数と水温

*目合 29,37,48mm の漁獲尾数から算出。1 反は 30 間切りで換算。

表1 2010年サンマ南下期調査結果概要

※目合22,25mm各1反(30間切り換算)、29,37,48mm各4反(30間切り換算)、55mm2反(30間切り換算)

St. (揚網日)	位置		水温(°C)			サンマ漁獲尾数						合計	
	北緯	東経	0m	50m	100m	目合22mm	25mm	29mm	37mm	48mm	55mm		
1	10月1日	42-42	145-22	16.3	13.2	2.6	88	59	674	139	5	0	965
2	10月1日	42-20	145-40	15.1	2.3	1.5	—	—	—	—	—	—	—
3	10月2日	42-00	146-00	14.5	2.9	1.5	—	—	—	81	7	—	88
4	10月2日	41-30	146-30	15.7	2.5	1.8	—	—	—	—	—	—	—
5	10月3日	41-00	146-50	13.7	2.9	1.9	—	3	12	42	5	—	62
6	10月3日	40-30	146-55	12.3	3.3	1.4	—	—	—	—	—	—	—
7	10月4日	40-00	147-00	15.9	10.3	3.5	—	—	—	151	21	2	174
8	10月4日	40-00	146-15	15.5	12.1	3.9	—	—	—	—	—	—	—
9	10月5日	40-00	145-30	17.8	11.4	1.9	—	—	4	95	14	—	113
10	10月5日	40-15	145-00	18.4	7.1	3.7	—	—	—	—	—	—	—
11	10月5日	41-20	143-25	16.5	12.3	6.0	—	—	—	—	—	—	—
13	10月6日	41-40	144-00	16.9	5.9	5.7	—	—	2	67	6	—	75
14	10月6日	42-00	144-00	15.0	4.4	2.3	—	—	—	—	—	—	—
15	10月7日	42-15	144-00	16.3	3.9	2.3	3	25	208	422	22	—	680
合計							91	87	900	997	80	2	2,157

表2 サンマ南下期調査における漁獲尾数とCPUEの経年変化

	2000年	2001年	2002年	2003年*	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
漁獲尾数(尾)	608	8,124	2,168	2,425	168	1,851	9,005	316	200	6,508	2,157
CPUE(尾/反)	7.2	112.2	40.8	185.3	2.0	21.3	124.2	3.5	2.9	58.0	22.0
漁獲調査点数	7	6	4	1	7	8	6	7	5	8	7

*2003年は荒天、地震等により、漁獲調査点は1点のみであったため参考値。

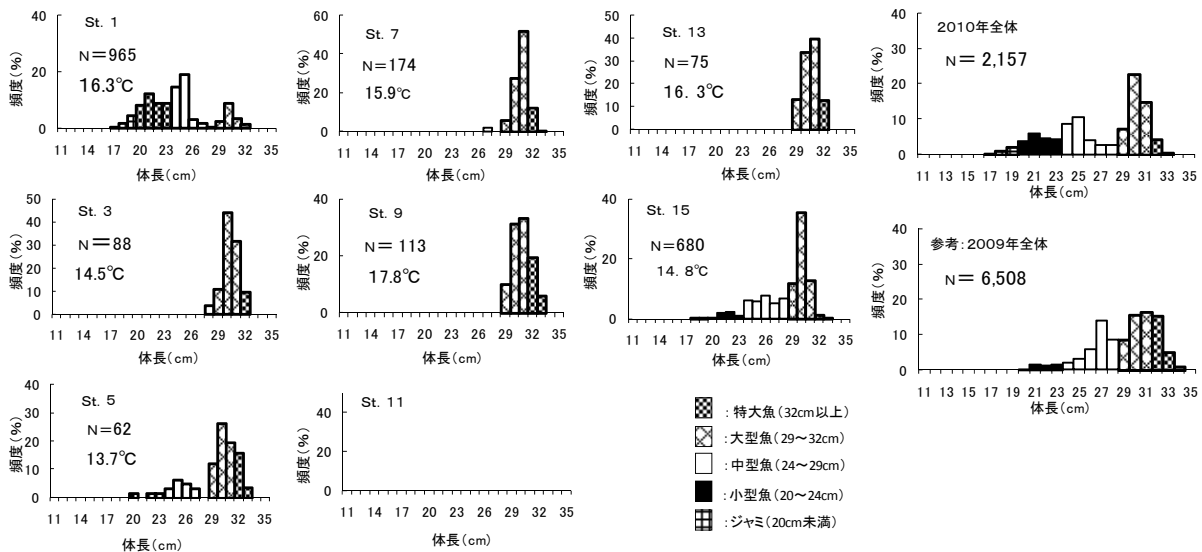


図2 2010年サンマ南下期調査におけるサンマの体長組成(Nは漁獲尾数, 温度は表面水温)

4. まとめ

この時期のサンマは、親潮水(冷水)の中を北方四島周辺から北海道・本州方面に向けて南下します。今回も漁獲調査点は、例年好漁場が形成される親潮水と北上暖水の潮境付近に配置しました。表面水温をみると、沿岸域(特に十勝沖)ではサンマの分布に好適な水温よりも若干高めであり、沖合域も比較的高い水温でした。また、今年は漁期前から資源状態は昨年を下回ると推定され、初漁日から例年にない不振が続いていました。今回の調査結果では、釧路・根室沿岸域で漁獲尾数が多く、また、沖合には大型魚主体の群れが分布していることから、今年のサンマの南下は、沿岸域と沖合域のそれぞれを南下していると考えられます。

(文責: 釧路水産試験場 調査研究部, TEL:0154-23-6222, FAX:0154-23-6225)